



Let's do it now!

2022に向けて誇りを持って All is well.

2020-2021年度
西日本区理事 古田 裕和

初夏を思わせる日もあるかと思えば真冬の厳しさを感じる日もあり、体調管理が非常に難しい昨今です。また新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令されている現在、一日も早くワクチン接種ができるようになり日本中がコロナ以前の生活を取り戻すことを願うばかりです。

2月を振り返るとコロナ禍ではありますが2月20日に阪和部会が奈良商工会議所とZOOMでのハイブリッド形式で行われ、130人を超える参加者になり、久々にいろいろなメンバーの顔を見ることができました。また仙台YMCAの村井伸夫総主事による東日本大震災の当時と現在についての講演があり、とても有意義な時を持つことができました。中井阪和部部長はじめ阪和部の皆さまありがとうございました。

またクラブの活動では2月6日に京都ウエストクラブの40周年記念例会が京都国際会館で行われました。本来昨年5月に予定されていた例会ですがコロナの影響で今年の2月に式典のみという形で行われました。会の最後にはサプライズ企画としての突然の新入会員の入会式も行われ、すごく盛り上がりのある例会だったと思います。また2月16日には岡山クラブのピンクシャッター例会がYoutube配信という形で行われコロナ禍ですが、例会の時間を共有することができました。

2月に行われたこのような部会や例会では自クラブ以外のメンバーの顔を久しぶりに見ることができとても嬉しく思いました。現在、西日本区のメンバーが集まるのはどんなケースがあるかと考えてみると、例会などクラブ単位の集まりはZOOMなどで行われているので、まだ頻繁に行われているかもしれませんが、中にはZOOMでの例会も開けていないクラブもあり、やはり集うことの難しさを実感せざるを得ません。

本来、区等が主導して行わなければならないクラブを超えて集うということが今期ほとんどこれまで出来なかったことは本当に申し訳ないことをしたと大いに反省をしています。

今、すでに期の終盤にさしかかってきましたが、ワイズメンズクラブ創設100周年に向かって西日本区が大きく前進していくために西日本区のメンバーが交流できる機会をできるだけ作っていきたくて考えています。その第1弾として西日本区のメンバー全員に呼びかけ、ZOOMでのフォーラムを3月27日に行うことを企画しています。

久しぶりにクラブを超えた交流をしていただくことにより、多くの刺激を受け今後のワイズ活動をますます大きくしていただきたいと思います。また、ワイズ100周年、西日本区25周年に向けて、メンバーの気運を高める、そして困難な状況の中であってもワイズメンズクラブのムーブメントを高める、ワイズ活動の役割の大切さに気づき今後の活動を高めていく、といったことを目的に行おうとしています。また多くのメンバーが顔を合わせた交流を行う、そしてその中から西日本区の現状を理解し問題解決への糸口をそれぞれが見つけていくという意味も含んでいます。どうか多くのメンバーの参加を得てフォーラムを成功させ、次の企画に繋げていきたくて思いますのでよろしくをお願いします。

また先日北九州クラブの絹川会長から嬉しいニュースが入ってきました。北九州クラブとネパールのルンビニネパールクラブとが正式にIBC締結することが決まったというニュースです。今期両クラブは何度もオンラインによる交流会を重ねられ5月に締結式を執り行うことが正式に決まったようです。両クラブの努力が大きく実を結び本当に嬉しいニュースを届けていただきましてありがとうございました。

■今月の聖句 2021年3月

「昔の方がよかったのはなぜだろうかと言うな。それは賢い問いではない」

コヘレト 7:10

聖書の小窓「昔が良かった？」

コロナ禍の中で聞こえてくる言葉に「元の生活には戻れない」というものがあります。

その生活がどうしてよかったのか、いまコロナ禍にあって何が大切であったかを教えられています。

私たちは「昔の方がよかった」という言葉をよく聞きます。なぜ「昔の方」がよかったのか。それは未来に対して不安があるからだと言えます。これからどうなるのかわからない。

そのような中では確実に安心していられる昔に戻りたいとおもうのでしょうか。

しかし、時間は過去にはもどりません。いくら昔がよくても、昔にはもどれないのです。

となると「賢い問いでない」とはまさにそのとおりです。

たとい未来に不安がっても、ワイズの仲間を信じて一歩踏み出す。先に進まれるワイズ仲間と共に一歩ふみだす。

それが未来につながると思います。新しい生活様式があるなら、新しいワイズ様式を作りましょう。

それがワイズの未来につながります。

日本福音ルーテル広島教会(松山教会兼務) 牧師:立野泰博

■YMCA報告

2月23日にYMCA大会をオンラインで開催いたします。

この原稿を記載している数日前の、2021年2月13日23時07分頃の深夜に、福島県沖で、M7.3の地震が発生しました。まずテレビで緊急地震速報が流れ、縦揺れが来て、その次に、携帯電話から、久々に聞く緊急地震速報のアラームの音が大きく聞こえてきました。

緊張して、身構えていたところに、大きな横揺れが来ました。波長が長いように感じる長時間の横揺れに、東日本大震災の記憶が、自分の身体の中から蘇ったように感じました。その後の余震が続いていますが、大きな被害が出ないことを、毎日、祈るばかりです。

2021年3月は、東日本大震災発生から「もう10年」、「まだ10年」どうでしょうか。

一人一人の心の中に刻まれた想いは、千差万別であり、とても一言では綴れない、10年の時が流れたと感じています。この間に、私たち自身も、10年の齢を重ねており、すべてが変化しています。その中であっても、被災地の〇〇という地名の□□さんと、いつもお名前を呼ぶようにしてきました。仙台YMCA支援対策室で支援活動をされている△△さんとか、東京YMCA石巻センターや盛岡YMCA宮古ボランティアセンターで一緒に過ごした、△□さんなど、常にお名前を忘れない努力をしてきました。「被災地」という土地名はなく、「被災者」という人名もないはずですが、これも、「そっと寄り添う」働きではなかったでしょうか。YMCAは、2011年以来、東西ワイズの歴代理事の皆様のリーダーシップにも助けられ、地域の皆様と共に歩み、災害支援活動の時に「そっと寄り添う」働きを目指してきました。

今、10年目にあたり、私たちのつながりと関わりを再認識するための、「東日本大震災10年誌」が、ワイズメンズクラブ東日本区から呼びかけ、東西日本区の協力により、6月を目標に編集されつつあります。委員長は、前アジア太平洋地域会長・東日本大震災支援対策室長などを務められた田中博之さんが皆さんとともに担われています。私たちのYMCAと、ワイズメンズクラブのパートナーシップの原点の一つとして、「つながり」と「関わり」を今後とも、再認識しながら、共に歩めていければ幸いです。日本YMCA同盟として、全国の皆様によって支えられてきた、この10年の節目の3月に想いを馳せました。

日本 YMCA 同盟
担当主事 光永尚生 (三島)

■3月の西日本区強調月間

JWF

**JWFは皆さまの厚意によって支えられています。
個人やクラブの記念に合わせて献金をお願いします。**

会員の皆様には日頃よりJWFについてご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

JWFは、アジア初の国際大会として1975年に熱海で開かれた第51回国際大会の剰余金を「アタミ基金」としたことに始まります。「アタミ基金」はその後、「日本ワイズ基金」となり、日本区が東西に分割された後はJWFとして今日に至っています。当初、900万円余でスタートしましたが、その後40数年間にわたり積極的な献金が続けられた結果、昨年度末で3000万円余となっています。

JWFは、「ワイズ発展の重要プロジェクトおよび、緊急事態に対応するために活用される」(JWF管理委員会規則第4条) ことになっていますが、昨年度は「西日本区新生ワイズ起こし運動」を推進するための資金として、300万円を支出しました。この300万円はワイズ将来構想特別委員会において「新生ワイズ運動特別資金」として活用されています。

今期は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、例年と比べて献金額が減少し、このままでは事業目標(50万円)の達成が困難な状況です。クラブの例会や様々な活動が通常通りに行えないなかで献金をお願いすることは大変心苦しいことですが、今こそJWFの意義を再確認していただき、個人・クラブ・部の様々な記念や行事の機会に献金していただければ幸いです。

献金は随時受け付けています。区の事務所または私までご連絡ください。

ご献金いただいた場合は、日付・金額とともに寄贈者名と寄贈理由が奉仕帳に記載されることになっています。

JWF管理委員会
委員長 西野 陽一 (大阪高槻クラブ)

■新しい仲間をご紹介します

1/10入会	横山 徹太郎	神戸学園都市クラブ	六甲部
1/29入会	橋崎 彩音	姫路グローバルクラブ	瀬戸山陰部
2/6 入会	森田 慎吾	京都ウエストクラブ	京都部



■第32回 ハイブリッド阪和部会が開催されました

<ハイブリッド阪和部会のお礼>

阪和部長 中井 信一(奈良クラブ)

2月20日(土)、西日本区の多くの仲間のご支援とご理解で、“ハイブリッド阪和部会”を開催する事が出来ました。理事通信を通じまして登録頂きました皆様に心よりお礼を申し上げます。当初登録者数を心配していましたが、来賓を含め133名の仲間と村井総主事様/仙台YMCAの熱い有意義なお話をお聞きする事が出来ました。1週間前に福島沖で震度6強の大きな地震が有り、開催も心配致しましたが登録者皆様の熱意のお陰で村井総主事様をお招き致しました。阪和部長に就任致しました際に、東北大震災が発生し、10年が経過致しますので阪和部会を大好きな奈良ホテルで開催し、村井総主事のお話を阪和部の皆様とご一緒にお聞きしたいというのが小生の夢の一つでした。村井総主事様とのご縁は、大震災直後の夏休みに三枝総主事/奈良YMCAと10名のユースリーダーの皆様と京都から夜行バスにて仙台に移動し、仙台YMCA内の教室にて寝袋で寝たのを懐かしく思い出します。それ以来、クラブや阪和部の有志とも被災地を訪問し、毎年の様に村井総主事様とお会いする機会を頂いていました。小生の部長主題『寄り添う。忘れない。』も総主事から教えて頂いた大切な言葉です。さて、古田理事は「今出来る事をしっかりと。」とお話されていますが、安心・安全を第一義に“ハイブリッド形式”で開催致しました。予算の関係で、阪和部有志、吉田中西部長、林(佑)実行委員長をトップに奈良クラブ全員が手作りで作り上げました。音響や動画の画面共有の際に一部不都合も生じました。役員の皆様もお名前の一覧表のご案内だけで大変失礼致しました。それも村井総主事様のお話で救って頂きました。多くの写真を使い、震災後10年間を振り返り、今の東北の現状を熱く語って頂き、我々に今後の活動のヒントを沢山頂きました。「讚美歌536番」(むくいを望まで)も引用されました。ここに“ハイブリッド阪和部会”のご報告と心からのお礼を申し上げます。



↑奈良メイン会場の参加者



↑大阪南 YMCA会場の参加者



↑古田理事のご挨拶



Zoom 参加風景



↑中井部長のご挨拶



↑村井総主事のご講演

■京都ウエストクラブ40周年記念例会を終えて



2021年2月6日国立京都国際会館にて40周年記念例会を行いました。コロナ禍のしかも緊急事態宣言下での開催となりこのような時期に行う是非もありました。本来は2020年5月5日に計画しておりましたが、一回目の緊急事態宣言が出され、会場の国際会館も閉館となり延期になりました。しかし今回は国の指針に従い、十分な感染防止対策を努めれば開催可能との会場の判断がありました。「国立」の会場なので国の指針の元の開催と言える判断し決行に至りました。300名の会場を予約していましたが、定員を100名に絞り、宴席は中止し、式典のみを行うこととしました。通常ならば他クラブ例会や近隣の部会訪問に勧誘の為に通うところですが、それら自体開催されておらず、また規模縮小の為、宣伝活動もすることなく、それどころか遠方のIBC・DBCを始め、多くの方々に参加をご辞退頂くお願いをするなど、前代未聞の記念例会となりました。準備期間もコロナ禍で集まって会議することもできないなか、今できることを考え、何とか我がクラブらしい式典にすべく知恵を出し合いました。

明るい話題として新入会者が順調に増え、目標であった40周年を40名で！を越え、43名で迎えることになりました。更にはこの記念例会で特別な入会式を行うこともできました。「特別」というのは我がクラブのチャーターメンバーで重鎮の森田恵三ワイズのご子息の入会です。西日本区で将来構想委員長としてメンバー増強に奮闘される森田ワイズへのサプライズとして、1年以上前から入念に準備をした結果、当日のその時までバレることなく、最高のリアクションを頂くことができました。

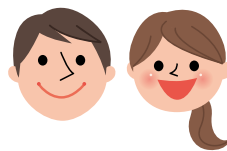
記念例会が終わりメンバーは安堵と満足に満たされました。難しい状況でしたが40年をしっかりと祝い、未来に向かって歩む姿勢を示せたと思います。

ご列席頂きました皆様、ありがとうございました。

京都ウエスト40周年記念事業実行委員長
市橋 清太郎



■NEWコンテンツ!!是非お読みください!!



ワイズで自慢したい! 教えたい!知ってもらいたい わたしの横顔!

理事通信では各事業役員会などの情報を毎月、西日本区のワイズのみなさんに発信してまいりましたが、今期は新型コロナウイルスの影響により交流にも制約がありワイズとのふれあいも少なくなり、ワイズの皆さんは西日本区、各部の役員の皆様のあたたか〜い人間的な横顔を知らないのでは??と考えました。そこで特別企画として、お堅い話は一切ナシ!役員の皆様の意外な一面をクローズアップして楽しく読んでいただけるコンテンツとして「わたしの横顔」を企画することに致しました。



私の青春は YMCA 発祥の地 ロンドンでした。

国際・交流事業主任
中堀清哲 (鹿児島クラブ)

昭和末期のバブル経済が弾けた頃、大学受験に失敗し、惰性で専門学校に通っていた私は「日本はこのままでは大変なことになるぞ」と考えておりました。世界史が大好きだったせいで、私はかつての大英帝国が『斜陽の国』と言われながらも、いまだに先進国として踏ん張っているのは何故か、と云う理由を探しにロンドンの老人ホームで住み込みで働くことにしました。23歳の時です。日本は急激に高齢化社会が到来することは分かっていたから、福祉国家と言われた英国の老人ホームで働くとか何かが見えてくるだろうとの思いでした。老人介護の仕事はとにかく大変で、1年間で体重が20キロも痩せました。(今は元に戻りましたが…)その職場は英国の社会の縮図そのもので、老人・医療福祉問題、人種、宗教、移民問題などの坩堝(るつぼ)でした。体重は減りましたが、そこでの経験で得たものは大きかったです。ロンドンで日本語講師になれるという学校があったので日本の文科省認定の日本語教師免許を取得し、結局5年間英国に滞在しました。もし、私に兄弟姉妹がいたら、ポルトガルでホテル経営でもしていたかもしれませんが、25年前に鹿児島に戻り、生まれ故郷の霧島・鹿児島を元気にしたいと色々やっております。遠回りばかりですが、コロナ禍でのんびり屋だった自分が『喝』を入れられております。イギリスで20キロ痩せたように、アフターコロナを生きなければならぬと思います。



髭が素敵な「若かりし頃?」の中堀主任



楽しいコンサート

中西部長
吉田由美（大阪なかのしまクラブ）

私は3人兄弟で姉と弟がいます。年子の姉は音楽大学声楽科を卒業し、若い頃は、関西歌劇団でオペラのプリマドンナとして名を馳せていました。弟は父の会社を継いでいますが、弟のお嫁ちゃんは音楽大学器楽科を卒業したピアニストです。私自身は全くの素人ですが、長年フルートを楽しんでいます。



この3人姉妹で『高丸ホットシスターズ』というトリオを組み、病院や障がい者施設、イベントYMCAなどいろいろなところで演奏させて頂いています。

栃木県那須高原にある障がい者施設「マ・メゾン光星」では、素晴らしい環境の中で100人ほどの方が生きがいを持って生活をしています。この施設で初めてコンサートをさせて頂いたのが11年前。以来7回訪問させて頂き楽しい交流の時を持っています。入所者さん（全て大人）は私たちのことを、まるでアイドルのように名前と呼んで下さり、大騒ぎです。

コロナ禍になる直前の2019年12月10日には、マ・メゾン光星を運営する社会福祉法人「慈生会」の本部のある東京で、児童養護施設「ベトレヘム学園」卒業生支援のコンサートを開催させて頂き、大阪なかのしまクラブのDBCクラブである東京たんぼぼのメンバーや、東日本区理事・板村哲也様、ワイズコムをご覧になった方々も来ていただきました。

コロナが終息し、あの楽しい時が戻ってくることを心待ちにしています。



ベタニアの家 チャリティーコンサートでのワンシーン

■周年例会情報

京都パレスワイズメンズクラブ

クラブ設立 50 周年記念例会 延期のご案内

はじまりは YMCA から
Thanks! YMCA

2021年 5月23日(日)

17時開始 20時30分終了予定

ところ / 京都ホテルオークラ

※申込詳細については第3報にてご案内させていただきます。

お問合せ先 / 京都パレスクラブ 50 周年記念例会実行委員長 小林千春

■西日本区フォーラム情報

第1報

さあ、今、
会いましょう！
Come on,
let's meet now!

《西日本区フォーラム》

2021年 3月27日(土)

▶午後3時～5時 : Zoom会議

※話をする人以外は、ビデオ・マイク停止にて参加

▶午後7時～8時 : フリートーク

※内容:今後検討



■西日本区大会情報

Let's do it now

2022に向けて誇りを持って

All is well.

2021年 6月5日(土)／6日(日)

ワイズメンズクラブ 国際協会

第24回西日本区大会

大会会場 / 懇親会 : ウェステイン都ホテル京都



■理事事務局から

各クラブ、各部などで西日本区内に広く周知したい情報等があれば、書記(安井) および理事事務局長(高倉) までお知らせください。

安井▶

高倉▶

